

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	先端ゲノミクスを駆使したがんの初期発生とクローン進化に関わる分子基盤の解明
研究代表者	小川 誠司 (京都大学・大学院医学研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究では、がんの起源を解明することを目標とし、正常組織や前がん病変の単一細胞シーケンスなどにより、がん化における超早期の過程に関わる遺伝子変異や表現型を明らかにしようとするものである。</p> <p>単一細胞シーケンスだけでなく、非コード領域の解析や大規模コホート解析も計画されており、発がんの初期過程を反映する分子の同定につながるといった可能性があり、学術的意義は非常に高い。さらに、見いだされた分子を標的にすることで、固形がんの早期診断やいまだに実用化されていないがん予防薬の開発につながる可能性があり、社会的な波及効果も極めて高い。</p>